

平成19年度 「先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム」

【プロジェクトの名称】 社会的 IT リスク軽減のための情報セキュリティ技術者・実務者育成

【概要】

奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科では、情報系大学院、研究機関、企業、NPO 等のセキュリティ関連組織と連携し、情報ネットワーク管理・運用の現場でリーダーシップを取り活躍できる技術者・実務者を育成する事業の準備を進めている。

本プログラムに参画する大学院には、日本のインターネット黎明期よりインターネット研究に関わり、特に情報セキュリティ技術に関して最先端の研究を行う教員が多数集積している。

本プログラムでは、これらの教員がそれぞれの専門知識を相互に提供すると同時に、連携組織全体で持つ管理・運用・教育 Know How を共有することで、実践的情報セキュリティ人材育成が可能となる。ここでは特に、単にネットワーク機器の設定、セキュリティシステムの操作を知っているだけでなく、体系化された知識を背景に、技術だけでなく法律、政策、経営、倫理を理解した上で、経験に基づく勘を備えた実践型の人材育成を行う。

<連携組織> 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科
京都大学大学院情報学研究科
大阪大学大学院情報科学研究科
北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科
情報通信研究機構
特定非営利活動法人情報セキュリティ研究所
JPCERT コーディネーションセンター
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

<予算額> 年間8,000万円程度

<取組開始時期> 平成20年4月～(4年間)

【活動概要】

1. 実践的情報セキュリティ人材育成

プログラム修了後、各組織のCSO/CIO またはその補佐となりうる実践的な人材育成プログラムとして、各大学院から選抜された学生に対して教育を行う。平成20年4月より20名程度の学生に対して、1年という期間で集中的に講義・演習を行う。このコースは、3期3年間にわたって行うが、その後各組織で連携して発展したエクステンションコースとして継続する予定である。

2. さまざまな育成対象

本プログラムでは、原則として各大学院の学生を対象としているが、各大学院では積極的に社会人を受け入れており、情報セキュリティ技術者・実務者を志向する社会人も参加が可能である。

3. 教材コンテンツの作成及び演習プログラムの作成

各組織が有する授業コンテンツを積極的に相互利用するため、本プログラムで行われる講義はすべてアーカイブされ蓄積される。また、情報セキュリティ技術者・実務者育成には、実際のセキュリティインシデントを体験することにより、管理・運用上の Know How/勘を身につけることが不可欠である。したがって、実際規模のセキュリティインシデントを体験できる演習プログラムが不可欠である。本プログラムでは、こうした演習プログラムに大規模ネットワークエミュレータを用い作成する。

【効果】

- 体系化された知識を背景に、技術だけでなく法律、政策、経営、倫理を理解した上で、経験に基づく勘を備えた実践型の人材を毎年 20 名程度輩出する。
- 基礎教育を各大学院で行うとともに、共通教育及び演習を実際に学生が集結して学ぶことにより、単に知識を身につけるだけでなく、学生同士の人的ネットワークを構成させ、将来の人的財産形成につなげる。
- 本プログラムの講義、演習、評価等を広く公開することにより、社会による評価を受入れ、プログラムの改善に努めるとともに、連携組織の強化に活用する。

【本プレスリリースに関する問合せ先】

奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科

教授 砂原秀樹

E-Mail: suna@is.naist.jp

電話: 0743-72-5148

FAX: 0743-72-5149

アドミッションポリシー

- 各大学院の修士課程の学生
- **社会人への門戸開放**
 - 働きながらの参加を可能に
 - 1年間でのプログラム習得
 - 社会人修士学生
 - 科目等履修生での参加

特徴と期待される効果

- **実践的実習**による経験と勤の習得
- 最近技術知識の獲得
- **法律・経営・政策・倫理的知識**の習得
- プログラムの**公開**による広報と評価
 - 社会(企業・官公庁・大学)の要請の吸収
 - プログラムの評価と改善
 - コース利用者の確保
 - 人材の就職先の確保
 - 人的ネットワークの形成

育成人材イメージと教育体系

